

第15回中学校（教科）柔道指導者研修会



授業内で実施できる固め技の簡易試合の様子

第15回全国中学校（教科）柔道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本柔道連盟、後援＝スポーツ庁）が10月18日～20日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで講師13名、参加者18名が集まって実施された。

本研修会は、中学校保健体育武道における柔道授業の充実に向けて、柔道を専門としない中学校保健体育科教員の指導力向上に資することを目的に開催された。

◆10月18日（金）1日目

開講式では中里壮也なかざとさうや全日本柔道連盟副会長兼専務理事と端春彦はたはるひこ日本武道館振興部副参事兼振興課長が主催者挨拶を述べた。

開講式後、講習1では向井幹博むかいみまひろ講師より「講道館柔道・礼法」・「基本的な指導①」の講習が行われた。中学校武道授業の目的とねらいについて説明したのち、柔道指導で押さえてほしい基本的指導内容として柔道の歴史や、特性についても言及した。

その後、大道場に移動し、姿勢や立礼及び座礼などの礼法、体裁きや組手など基本的な動作について解説した。

続けて、高橋健司たかはしけんじ講師の「基本的な指導②」の講習が行われた。高橋講師は柔道授業の安全面や工夫面の留意点について説明し、「学校体育では健康面や安全面を第一に留

意し、限られた時間の中でいかに効率よく効果的に技術や知識を体得させるかが重要である」と呼びかけた。併せて指導手順や学習を通して体得した教育効果が生活にどのような影響を与えるか、など参加者に指導を行う上でのヒントを与えた。

前瀧大吾まえたきだいご講師の「受け身①」の講習では、初めに受け身の授業における評価基準を説明し、蹲踞そんきよや立位の姿勢から受け身をとったり、ペアになって練習をしたりすることによって、生徒が自然に受け身の動作を学べるような指導方法を紹介した。

1日目の締めくくりに田中裕之たなかひろゆき講師が「教育に活かす武道の心」をテーマに講義を行った。田中講師は「指導を行う先生はなぜ学校体育で柔道の授業を行うのか自信をもって答えられなくてはいけない。この研修会でその答えを見つけて、生徒たちに伝えられるようにしてほしい」と呼びかけた。

◆10月19日（土）2日目

初めに、坪根一美つばねひとみ講師、近藤哲也こんどうてつや講師、與儀幸朝ぎよきしむ講師による「固め技」の講習が行われた。坪根講師は参加者を生徒に見立て、簡単な模擬授業を行い、グループになって協力して固め技の形を作り上げる伝言ゲームを紹介した。ゲーム後、與儀講師から今回の授業における「指導の個別化」、「学習の個性化」、「共同的な学び」の観点から解説を行った。参加者からは「今までは技を教えるだけ

の一方通行の授業になってしまっていたが、このようなゲーム形式であれば楽しく授業ができそう」、「他の技にも応用したり、難易度を調整したりして実践してみたい」との意見が上がった。

続けて、近藤講師は袈裟固めの抑え方・逃れ方を学んだあとの3時間目の授業を想定し、生徒自身が審判や安全管理を行う簡易的な試合の方法について紹介した。

近藤講師は自身の授業づくりにおいては安全性やルールのわかりやすさ、相手への気遣いや思いやりなどにこだわっていると伝え、授業内における生徒へのヒントの与え方等について言及した。

次に和泉大樹講師によって「受け身②」の講習が行われた。和泉講師はウォーミングアップやモチベーション、スキル等の上昇につながる受け身の練習方法として帯を使用したゆりかご運動を用いた練習やグループで行える練習、じゃんけんを用いた練習など生徒が楽しみながら学ぶことのできる様々な学習内容の紹介をした。



休憩を挟み、午後の講習では山根友樹講師、石村大祐講師による「投げ技①」の講義が行われた。はじめに組み方や姿勢などの前日の研修内容の振り返りを行い、応用として、進退動作を取り入れながら動きの確認を行った。石村講師は「お互いに組んだ際の緊張感や、空気感も新たな気づきのきっかけになるので大切にしてほしい」、「攻防やゲームを行う際は、安全のため全力でも7割の力で行うように生徒に呼びかけるようにしている。残りの3割の力は相手への思いやりに使うようにしてもらおう」と述べた。

続けて、山根講師が膝車の指導を行った。山根講師は「投げ技で一番に膝車を実践することで柔道の理合いを学ぶことができる、膝車は崩し・作り・掛けが分離しやすく理解もしやすいが片足で立つ不安定な体制になるので注意する必要がある」と話した。

「投げ技②」の講習では3人組で行う体落としの疑似体験といった練習方法を紹介した。山根講師は「怪我につながる可能性がある動きをあらかじめ生徒と一緒に確認しておくことが安全のために重要である」と呼びかけた。続けて、大腰の指導を行った。大腰の練習の際、柔道経験者の参加者が柔道初心者の参加者に技のポイントを丁寧に教えながら和気あいあいと練習している姿が見受けられた。



◆10月20日（日）最終日

小山勝弘講師の「柔道の動きを科学的に理解する」の講習では、柔道の初心者指導の特徴、受け身動作の修得過程、頭部の動きの理解と頭部打撲の防止、柔道の動作特性を活かした指導計画の4つをテーマに講義を行った。小山講師は「柔道の様々な動作で身体リテラシーを高めることができるだろう。体づくり運動の領域をうまくかみ合わせることで柔道の授業の展開は広がる」と呼びかけた。

最後に木村昌彦講師の「柔道授業の魅力を考える」の講義では、武道必修化の意義について、相手を尊重し合うための独自の作法・所作を守ることの大切さを知り、知識・思考・判断力を駆使して積極的に取り組むことにあると話した。また、これから求められる教師像として「教科書に載っている内容をただ伝達するだけでなく、生徒が教材に飛びつき、教材を広げ、それを手がかりにして、たくさんの魅力的な教材を創り出すことができる力を育まなければならない、つまりコンピテンシーの育成を心掛けなければならない」と呼びかけた。

閉講式では端振興課長が代表者に修了証を授与、木村講師が講師講評を行い、全日程を終了した。